

事務事業評価の評価結果について（平成29年度の事業に対する評価）

河芸総合支所

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成29年度）					事業の評価		所管課長等による評価		
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成30年度以降の事業の方向性	所見
河芸・地域振興課	グラウンド管理運営事業（河芸総合支所）	スポーツを通じて、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。	運動施設利用者数	市民の健康づくりや競技力の向上のため、津市河芸第1グラウンド、津市河芸第2グラウンドの利用者数を指標とします。	49,000人	50,514人		地域住民のグラウンドゴルフ、スポーツ協会等のソフトボール大会、サッカー教室等の開催等安定した利用があり、R23や中勢バイパス等交通の便が良いため他地域からの利用者も増加している。	3	交通アクセスの良さに加え、両グラウンドが接していることからソフトボールやグラウンドゴルフ等の大きな大会の利用に便利で、引き続き利用者数増加が見込める状況です。引き続き施設の適正な維持管理と補修を行います。	拡充・充実	竣工後、防球ネットや照明等不具合が目につくようになっており、利用者が安心して利用できるよう今後も施設の維持管理に努めたい。
河芸・地域振興課	その他運動施設管理運営事業（河芸総合支所）	スポーツを通じて、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。	個人利用者数	市民の健康づくりや競技力の向上、マレットゴルフ普及啓発のため、「個人利用者数」を指標とします。	9,500人	9,015人	個人利用者数と年間券購入者、新規利用者の増加	かわげスポーツクラブの会員による年間利用に加え、市外・県外のマレットゴルフ愛好団体との交流を行うなど安定した利用がある。	3	地域住民を中心に例年並みの利用があり、事業目的である地域住民の健康増進。ふれあい交流の促進の場になっていると思われる。利用者の多くが、年間利用券による固定した利用者によるものが大半を占める。1日券の利用料金が高いため、一般の利用者が利用しにくいとの声があり利用者の増を考えると今後の検討課題である。	拡充・充実	今後も引き続き整備を行い、維持管理に努めることで利用者の増加に努めたい。
河芸・地域振興課	テニスコート管理運営事業（河芸総合支所）	スポーツを通じて、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。屋外のクレーコートであり、天候の影響を受けやすくコンディションの維持について、注意が必要です。	利用者数	市民の健康づくりや競技力の向上のため津市河芸テニスコートの「利用者数」を指標とします。	6,400人	6,356人	前年度実績を上回ること	河芸地域の団体の利用が多く、利用状態は安定しているが、地域外からの利用が入りにくく微増となっている。	3	微増ではあったが、利用者数も例年以上にあり、地域住民の方の健康増進やふれあい交流の場になっている。	拡充・充実	屋外のクレーコートであり、天候の影響を受けやすくコンディションの維持について、注意が必要です。外周フェンス、ネット、整地器具等についても維持管理に努め、利用者が気持ちよく利用できるようにしたい。

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成29年度）					事業の評価		所管課長等による評価		
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成30年度以降の事業の方向性	所見
河芸・地域振興課	地域インフラ維持・補修事業	道路、河川、公園及び交通安全施設等の維持補修に係る地域住民からの要望等に対し、迅速かつ柔軟に対応し、課題を解決することを目指します。	要望に対する迅速かつ柔軟な対応の推進	道路、河川、公園及び交通安全施設等の補修に係る要望等に対し、対応方法を迅速かつ柔軟に検討し、修繕等により、早急に課題解決を図ります。			地位住民からの要望（インフラ整備・補修）に対する迅速かつ柔軟な対応の推進	優先順位の高い事業については、迅速かつ柔軟な対応ができました。	4	道路、河川、公園及び交通安全施設等の維持補修に係る地域住民からの要望等に対し、94件については迅速かつ柔軟に対応することができました。	拡充・充実	自治会等の要望事業を全てを解決することができなかったが、少しでも多くの事業の早期解決に向け努力する。
河芸・地域振興課	体育館管理運営事業（河芸総合支所）	スポーツを通じて、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。	運動施設利用者数	市民の健康づくりや競技力の向上のため津市河芸体育館の利用者数を指標とします。	48,000人	46,372人		河芸地域の住民を中心にスポーツ愛好者が多数利用しており、3年連続して利用者が45,000人を超え、高い利用状態が続いている。	3	河芸地域を中心としてスポーツ愛好者の拠点となっており、スポーツを通して地域の方の健康増進や住民間の交流促進に果たす役割は大きいと思われる。中勢バイパス等、交通アクセスも恵まれ、河芸地域に加え他地域からの利用者も見込まれ、半年前から予約が埋まる等、利用希望が多い状態です。	拡充・充実	昭和54年に竣工し、老朽化が進んでおり、雨漏りなど不具合が発生しています。また、客席がない、入り口からアリーナまでの通路がバリアフリーになっていない等の問題もあります。多くの方が利用している施設であるので、安心して利用できるよう、必要に応じ施設修繕や改修を行い、高い利用率が維持されるようにしたい。
河芸・地域振興課	地域かがやきプログラム事業（河芸総合支所）	地域を担う人材育成を図るとともに、地域住民主体による事業展開を行い、地域の活性化をめざします。	イベント等の参加人数	地域を担う人材育成と地域住民主体の事業展開をめざす事から、イベントや教室・講座の参加人数を指標とします。	5,200人	4,393人		実行委員会等で計画・運営され、事業の目的はほぼ達成されています。	3	スポーツレクリエーション大会事業やフェスタinかわげについては、地域の認知度も高まり、ほぼ達成されているものの、魅力ある事業を継続するために、地域に密着した住民主体の事業展開が求められる。特産品開発事業については、平成26年度で終了したが、これまで開発された特産品の「にぎやか畑寿司」や「黒米おはぎ」などの完成品を「道の駅・津かわげ」で継続的に販売するとともに、また、「鯖ずし」を新たに考案し期間限定で販売するなど、地元での知名度向上など、継続した努力が求められる。	現状維持	住民ニーズや地域の課題に対し、地域社会を担う多様な人材育成を図ります。スポーツ大会やイベントを開催することにより、施設及び地域資源の有効活用を進め、地域住民の交流や健康増進を図ります。

河芸総合支所

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成29年度）					事業の評価		所管課長等による評価		
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成30年度以降の事業の方向性	所見
河芸・地域振興課	地域情報発信事業（河芸総合支所）	地域住民の活動の推進のための啓発活動の一環として、地域の話題を中心とした地域だよりを発行する。	地域情報誌の発行回数	地域住民活動の推進のための啓発活動の一環として、地域の話題を中心とした地域だよりを発行する。	4回	4回		地域情報誌「かわげだより」を年4回発行することができた。	4	地域の話題を中心とした地域だよりを年間計画どおり4回発行することができた。	現状維持	今後も継続して地域に密着した地域だよりを発行できるように努めていく。
河芸・地域振興課	地域インフラ補修事業（河芸総合支所）	道路、河川、公園及び交通安全施設等の維持補修に係る地域住民からの要望等に対し、迅速かつ柔軟に対応し、課題を解決することを目指します。	要望に対する柔軟な対応の推進	道路、河川、公園及び交通安全施設等の補修に係る要望等に対し、対応方法を迅速かつ柔軟に検討し、原材料を活用した技能員による直営作業により、早急に課題解決を図ります。			地域住民からの簡易な修繕や補修など要望等に対し、原材料を活用し、技能員等による直営作業にて、迅速かつ柔軟な対応の推進	地域要望に対し、迅速な対応ができました。今後も一層の迅速かつ柔軟な対応に努めます。	4	地域住民からの簡易な修繕や補修の要望等に対し、原材料を活用し、技能員による直営作業にて、462件の事案に対して迅速かつ柔軟な対応ができました。	拡充・充実	前年度の実績を踏まえ、より一層迅速な対応が図れるように努力する。
河芸・市民福祉課	社会福祉施設等管理運営事業（河芸総合支所）	住民の福祉の増進並びに健康保持及び健康意識の向上を図り、利用者の福祉向上を図るための施設維持管理及び利用者の自主的な福祉活動の振興を図ることを目的とします。	利用者数	地域住民のため、福祉向上及び自主的な福祉活動の振興を図るため「利用者数」を指標とします。	19,500人	15,677人		各種福祉団体、ボランティア団体が積極的に行事等を計画し広く参加者を募って利用者の福祉・文化教養等の増進を図ることができた。しかし、行事等への参加者が減少したことにより目標値には達しなかった。今後もさらに適正な施設設備の維持管理を継続し、河芸地域のみでなく広く市全体からの利用者数の増加に努めなければならない。	3	目標値は達成できなかったが、施設利用者の福祉、文化教養等の増進を図るため、事業の推進を図るとともに施設利用者の満足度の向上にも努めました。	現状維持	「津市河芸ほほえみセンターの設置及び管理に関する条例」に基づき事業を推進するとともに、老朽化に伴う施設の修繕を行いながら、施設利用者の環境整備を進めます。